

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（映像・表現文化論） <input type="checkbox"/> 共通外国語（）
出題の意図	問題Ⅰ 映像・表象文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。 問題Ⅱ 映像・表象文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。 (A) 日本近現代文学における「偶然」に関する問題 (B) ゴダールの作品、および映画一般における音楽・聴覚的要素のありかたに関する問題

平成29年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 映像・表現文化論 全6枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 6枚、解答用紙 4枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
- ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。

問題Ⅰ

次の1～12の語句の中から、3つを選択し、選択番号を明記した上で、その語句について知るところを記しなさい。

1. 語りにおける焦点化
2. 石橋湛山
3. 映画におけるフレーミング
4. マイナー文学
5. 松竹蒲田調
6. 日本文学における耽美派
7. ヴァルター・ベンヤミンの「アウラ」
8. 壬^{ニッポン}兵
9. 西部劇
10. 明治戯作
11. 『青い山脈』
12. プレスコ

問題Ⅱ A

次の文章は、真銅正宏『偶然の日本文学 小説の面白さの復権』（2014年、勉誠出版）の一節である。(1) この文章を要約し（250字程度）、(2) 偶然と文学との関係について、日本近代文学に即して、考えを述べなさい（800～1000字）。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 真銅正宏『偶然の日本文学 小説の面白さの復権』、勉誠出版、2014年、233-238頁。

問題Ⅱ B

次の文章は、小沼純一『映画に耳を 聴覚からはじめる新しい映画の話』（2013年、DU BOOKS）の一節である。(1)この文章を要約し（250字程度）、(2)映画における音楽および聴覚的要素のありかたについて、映画史における具体的な事例を挙げて、考えを述べなさい（800～1000字）。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 小沼純一『映画に耳を 聴覚からはじめる新しい映画の話』、DU BOOKS、2013年、368-371頁。

